



平安だより

世田谷平安教会付属 平安幼稚園

2019年 4月号

「子どもたちの成長に励まされて」

牧師・園長 長村亮介

習慣化した時間は、ぼんやりとしてしまい、厚みや長さを失っていく。この事情をうまく表現しているジャネの法則というのがある。

ジャネの法則というのはフランスの心理学者、ピエール・ジャネの「時間の概念」という論文に紹介されている。これはピエール・ジャネの叔父さん筋にあたる哲学者ポール・ジャネが言い出したものだそうである。人間の感じる時間の長さは、幼い頃は長く、年をとるにしたがって短くなる。これを言いかえれば、ある年齢の時間の長さは、大体、年齢分の一である」というのだ。

つまり五歳の子供の一日は、六十歳の老人の十二倍も長いというわけだ。私の経験でも、幼年時代は非常に長く感じるが、年をとるにしたがって時間が短くなっている、三十歳をすぎた頃からどんどん縮小していったような感じがする。

過去の時間と現在の時間

誰でも子供の時代は長い。幼稚園から小学校あたりまでは、毎日が新しい出来事の連続で、あとで思い出すと充実して長い長い時間が経ったように想起される。ところが、中学校、高等学校と年が進むにつれて短くなっている、大学生時代は短い。毎年三月になると新しい卒業生ができ、卒業式のあと謝恩会を開くのが習いである。そこで彼らが異口同音に言うのが、「なんと学生時代は、早く過ぎ去ったことでしょう」である。

ジャネの法則にあてはめれば大学生は二十分の一、幼稚園児は五分の一。つまり同じ一年が大学生は幼稚園児にくらべて四分の一の長さしかない。大学に四年いて、やっと幼稚園の一年の時間しかないとすれば、これは短いわけだ。

(加賀乙彦 著 『生きるための幸福論』)

年をとっても時間が短くならない方法は、新しいことに挑戦する気力を持ち続けることが大切ということでしょうか。しかし、そのまま「毎日が新しい出来事の連続」の中に生きている子どもたちには、とても追いつけそうにありません。そういえば子どもの頃、母が「ちょっと待っててね」と言って帰って来るまでの時間の長かったことを、その時の心細さと一緒に、少し思い出しませんでした。母にしてみれば、短い、アツと言う間の時間だったんだと、この年になって改めて納得しました。

四月になって年少に新しく入園するお友だちは、これまでのお母さん、お父さんとの強い信頼関係から幼稚園の先生やお友だちと過ごすという新しい世界に入ります。どの子にとっても長い一日が始まることになるでしょう。年中さん、年長さんは新しい先生やお友だちとの新しい関わりの中で、新たな信頼関係を築くことによって、お兄さんやお姉さんになることの自信を得、大きな成長を遂げる機会になると思います。その子どもたちの成長は眩いばかりですが、子どもたち自身は、長い時間を生きているので、どうぞ、大人の時間で見ないで、ゆっくり見守っていただければと思います。考えてみれば、子どもたちの時間がゆっくりだからこそ、幼児期の著しい成長があるのかも知れません。反対に大人のように忙しい時間の中で、そんなに成長できるはずありません。

ところで、実は私、今年で六十歳、還暦になります。やはり年齢というのは、なってみないと分からないところがあつて、昔、もう少し若い時に考えていたよりも、「時間」が気になります。しかし、子どもたちの成長には、とても敵いませんが、大人になると成長が止まるのではなくて、その年齢に従っての成長というものもあるのではないのでしょうか。聖書の「ペトロの手紙二」は、「私たちの主、救い主イエス・キリストの恵みと知識において、成長しなさい。このイエス・キリストに、今も、また永遠に栄光がありますように。」

との御言葉で結ばれています。霊的な、信仰的な成長は、何時までも続く・・・、のではないかと思います。 Ω